

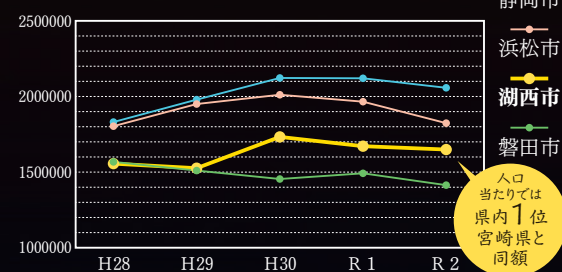
# MADE IN KOSAI

## こさいのモノづくり



湖西市は言わずと知れた「モノづくりのまち」。自動車部品などの工場がイメージされますが、近年では若い世代による新たな取り組みも始まっています。湖西市に生まれ世界で活躍した発明王・豊田 佐吉翁の探求心や創造精神を受け継いだ湖西のモノづくり現場を紹介します。

静岡県内市町製造品出荷額(単位:百万円)



出典:令和2年 静岡県の工業の概要

## オリジナルを生み出す次世代の挑戦者たち

工場というイメージが強いかもしれませんが、市内の中小企業の中で、一般消費者向け自社製品の開発に挑戦する企業が増えています。培ってきた技術を生かして、自分たちの想いを形にできる。誰かの暮らしを楽しくすることができる。

——そんな想いで挑戦する人たちを紹介します。

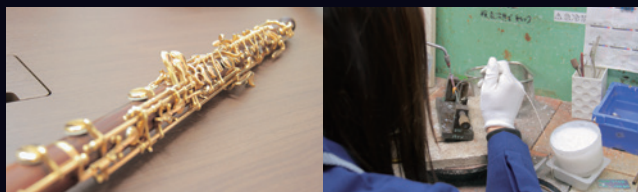
### 管楽器のように美しいアウトドア製品を開発

#### 山本工業有限会社

代表取締役 山本 哲也さん(43)写真左  
木下 力要さん(37)写真左から2番目



創業以来50年以上、管楽器の金属部品を作ってきた。サクソやオーボエなどに使われる美しい部品の数々を手作業のリレーで仕上げていく。しかし、コロナ禍で売り上げが激減。そこで従業員が見せた機転と経営者の行動力が、新ブランド立ち上げという新しい挑戦に繋がった。



◀従業員55人のうち47人が女性。  
細かなロウ付けや研磨、検査などの工程を担う。  
工程間のコミュニケーションが大切という。

普段から「自社の機械や技術でもっと何かできないか」と考えていた従業員の木下さんが、中小企業の新規事業を伴走支援する大阪の企業をテレビで知り、社長に持ち掛けたのがきっかけだった。その週の週末には社長が大阪を訪れ、新規事業の検討がすぐに始まった。

### 「美しく、永く使える真鍮の魅力伝えたい」

ほかの企業からの注文でなく、自分たちで商品開発するのは全くの初めて。志願した30代の社員3人と社長の勉強、議論の日々は1年半にわたった。真鍮を使って楽器を作ってきた自分たちの強みは何か、世の中のニーズはどうか、無数のアイデアを出し合い、完成したのはアウトドアでも自宅でも使える小型の「バイオエタノールランプ」。アウトドアにこだわらず、今後も新たな商品を生み出していくと意欲を見せる。



▲アウトドア製品のバイオエタノールランプ。  
ブランド名は「BRASSCENE/ブラシーネ」。真鍮を表す「Brass」と景色を意味する「Scene」を組み合わせた。板の繋ぎ目が全く見えないのは高いロウ付け、研磨技術の結晶。



## 「花を気軽に飾ってほしい」の想いを形に

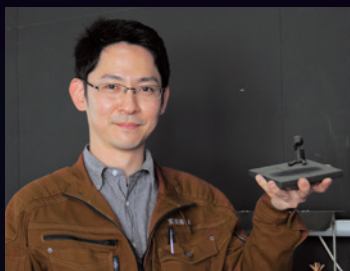
▲初の自社製品が「2022グッドデザインしずおか」匠賞受賞という快挙。

### 株式会社SEED

専務取締役 なか はた けい こ 中畑 圭子さん(57)  
やま たか ひろ 山田 貴大さん(31)

金属の板をレーザーでくり抜き、曲げ、溶接して組み立てる精密板金加工一筋36年。コロナで受注が落ち込んだのをきっかけに、自社の設備と技術で作れるものを作ろうと立ち上がった。

ヒントになったのは、中畑専務が好きな「花」だった。生け花の知識がなくても、どんな大きさの花でも簡単に飾れる花器があれば。そんな相談を受けた山田さんが、初めて触るCAD(設計支援ツール)を駆使し、1年弱の試行錯誤を経て完成したのが「はな灯和」だ。付属のガラス瓶に水を入れ、和柄にくり抜いた部分に花を挿せば、子どもでも簡単に美しく花を飾ることができる。最近では、CADを習得したことで可能になった、宅配ボックスや表札などのオーダーメイド品も手掛け始めたところだ。



## 自分の作ったものが誰かの癒やしに

しょう ま 笙磨 溶接

専務 ささき ふう すけ 笹瀬 優介さん(32)



将来自分が引き継いだ後の数十年先も生き残る会社にするため、溶接仕上げの美しさという自社の強みを生かした「アイアン家具」やインテリア製造の道を開拓しようとしている。

自信がなかった学生時代、父の手伝いでめり込んだ溶接の技術が認められたことで心が救われた。自分の製品が誰かを癒やし、寄り添う存在になればと開発を続ける。もともとの溶接加工請け負いは請負元の事情に左右されやすく、売り上げの軸を増やしたいとの経営上の思いもある。

現在の課題は販路の確保。クラウドファンディングのほか、製品を多くの人に見てもらうため、幹線道路に面した工場の一画にガラス張りのギャラリーを開くことも構想している。

◀アルミ溶接の技術を生かし、鉄のような塗装を施した、アルミ製家具も開発。重さが鉄の3分の1で女性でも扱いやすい。

## 挑戦者たちに聞いた「モノづくりの魅力って何ですか？」

- 楽器屋に並ぶ、または世界的奏者が演奏する楽器を見て、このパーツは私たちが作っているんだと胸を張れる。
- 日々、目に見えて技が磨かれる。1年前に手掛けた製品と見比べると上達を感じられる。
- モノづくりは思いやりの心。誰かが楽になる、楽しくなるものを生み出せる。
- 自由に挑戦させてくれて、試行錯誤する期間も待ってもらえるのは中小製造業ならではの。
- 最初はみんな初心者。技術や知識を現場で教わりながら、自分次第で成長できる。
- 複数の企業が関わってでき上がるモノを作るときに、自分が丁寧な仕事をすると次の工程の人の仕事がスムーズになる。他社からの「丁寧で助かったよ」の声が励み。

紹介した企業自慢の逸品は、モノづくりのまち・湖西市のふるさと納税返礼品にもなっています▼



誰かの”困った”をモノづくりで解決

## 「匠の技」集結プロジェクト進行中

### 湖西市商工会工業部会 キッチンカープロジェクト

地元飲食店からの相談を受け、立ち上がったのが湖西市商工会工業部会の役員メンバーだ。

メンバーは全員製造業、建設業の経営者。普段は指示を出す立場だが、設計も担うプロジェクトリーダーの指示でテキパキと作業に取り組む。その専門分野は金属加工、板金、研磨、研削など様々。「作業を通して仲が深まり、この縁をきっかけに仕事を頼んだり頼まれたりすることもある」という。



◀工業部会メンバーの皆さん(後列)と依頼した金 秀幸さん【かき豊商店】

有志の皆さんに協力してもらったおかげで、低コストで新しい挑戦ができてありがたい。完成して保健所の許可が出れば、海鮮丼などを販売して回り、お店への集客にも繋げたい。

### ＼誰かの”困った”／

コロナの影響で店舗経営が厳しい中、キッチンカー営業で販路を広げたい。市販の軽トラキッチンカーは室内が狭く使いにくい。もっと使いやすいキッチンカーはないだろうか。



▲1号機製作の様子。全員で協力して組み立て・塗装をする。



▲1号機は鉄の扱いに苦戦した経験から、2号機は土台部分にもアルミ素材を選択。軽量化が可能に。

### 新居町商工会 新居イノベーション研究会(AIRA) 燻製機プロジェクト



▲大きな燻製機内に満遍なく煙が行き渡るよう、密閉性と空気穴の確保が課題だった。

AIRAでは、地域特産の牡蠣を加工できる家庭用燻製機を5年ほど前に開発した。使ってみてほしいと頼まれた鮮魚店・割烹を営む竹内清隆さんは、「しらす燻」や「プリ丸燻」などの商品を発売。サービスエリアでも採用されるなど、燻製シリーズは売れ行き好調で、家庭用サイズでは作り切れなくなってきた。そこで、AIRAに従来の4倍サイズの燻製機の製作を依頼。空気穴の大きさなど試行錯誤の末、高さ160センチメートル以上の大容量燻製機が完成した。一晩でしらすの燻製300瓶分の生産が可能になった。AIRAでは、現在も新製品の開発に取り組んでいる。

### ＼誰かの”困った”／

燻製の注文がたくさん入るようになり、生産が間に合わなくなった。一度にもっとたくさん作れる大型の燻製機がほしい。



▲AIRAメンバーの皆さんと、完成した大容量燻製機。

AIRA委員長の原田 高久さん▶

竹内さんが燻製機を思った以上に上手に活用してくれて人気商品が生まれているのはうれしい限り。



◀依頼した竹内 清隆さん【割烹 紅葉】

大量生産の需要に応えられるようになったと同時に、種類も一度に何種類も作れるようになった。うなぎやサーモンなど新たな燻製商品の開発にも繋がっている。

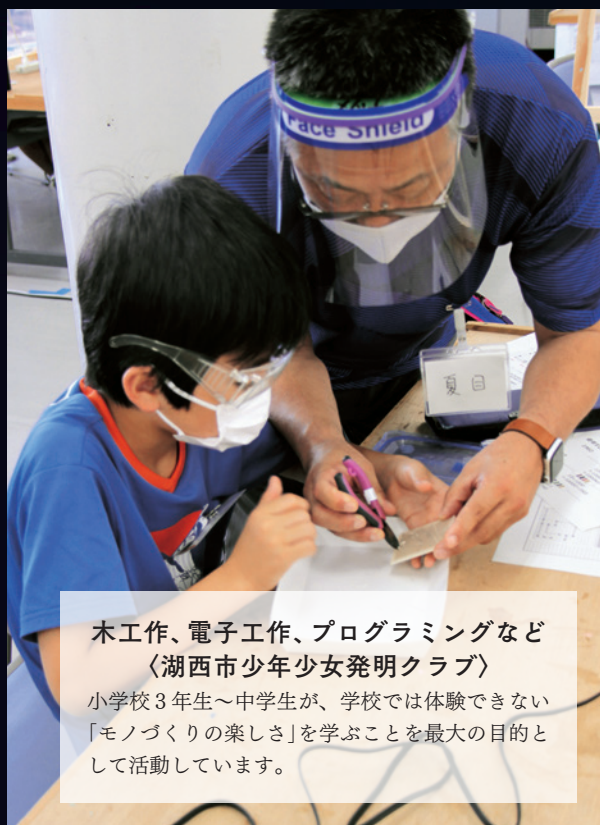
# 湖西市のモノづくり人材の育成

— 未来のモノづくり人を育てる —

湖西市では、地域に根差した市内企業と市内に通う小中高生をマッチングする活動やモノづくりの楽しさに触れる活動を進めています。幼い頃から、モノづくりのまち・湖西を支える企業を知る機会を増やすことで、将来のキャリア形成に向けた選択肢の幅を広げたいと考え、取り組んでいます。

## ミニ四駆工作 〈夏休み モノづくり教室〉

小学校1、2年生にモノづくりを初めて体験してもらおうきっかけとして、親子でミニ四駆を製作するイベントを開催しました。

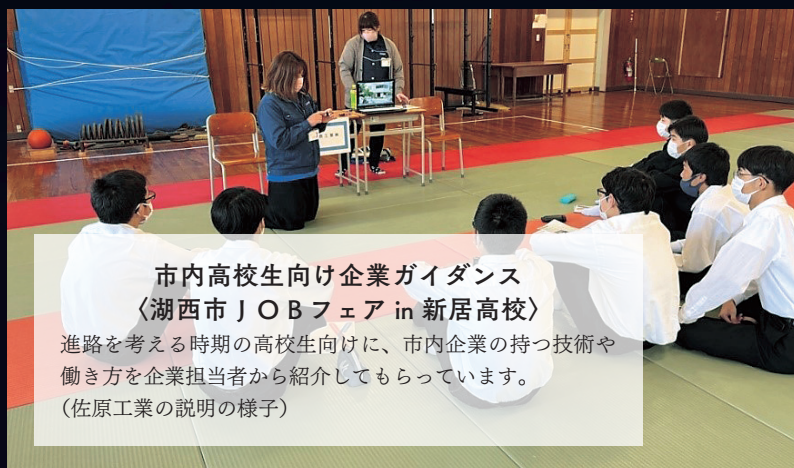


## 木工作、電子工作、プログラミングなど 〈湖西市少年少女発明クラブ〉

小学校3年生～中学生が、学校では体験できない「モノづくりの楽しさ」を学ぶことを最大の目的として活動しています。

## 小中学生×市内企業 〈大東鉄金×岡崎小学校〉

モノづくり現場の機械に実際に触れ、働く人たちの想いを直接聞く場を提供しています。



## 市内高校生向け企業ガイダンス 〈湖西市JOBフェア in 新居高校〉

進路を考える時期の高校生向けに、市内企業の持つ技術や働き方を企業担当者から紹介してもらっています。  
(佐原工業の説明の様子)

## モノづくり産業をサポートしています

湖西市の主要産業であるモノづくり産業の持続的発展のため、モノづくり人材の育成のほかに、中小製造業・商工会や金融機関とのネットワーク(つながり)の構築や、企業に役立つ情報の提供を行っています。

### 【モノづくり推進室の取り組み】

- ▶人材育成のためのイベントなど開催 ▶企業訪問
  - ▶企業支援特設サイトの開設・企業向けの補助金やセミナー情報をLINE配信
  - ▶企業PRに活用できる動画の作成をお手伝い
- ※もし希望される場合は、12月28日(水)までにご連絡ください。

問合せ先

現在公開されている動画はこちら▼

湖西市モノづくり推進室

☎053-576-0018 FAX053-576-1490



MADE IN KOSAI



橋田精機